

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(/ /)
授業科目名：子どもと言葉 英語表記：Child and Language ナンバリング：2323		単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名：細田香織 担当形態：単独
科目／系 列	領域及び保育内容の指導法に関する科目 ／保育の内容・方法に関する科目		
施行規則に定める科目区分 または事項等／教科目	領域に関する専門的事項・言葉 ／保育内容の理解と方法		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 言葉のもつ意義と機能を理解できる。 2. 言葉に対する感覚を豊かにする実践について理解できる。 3. 言葉を育て、想像力を育む児童文化財の意義について理解し、実践力を身につけることができる。			
【授業の概要】 「言葉」の意義と機能について理解した上で、子どもの言葉を育て、言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践に関する知識を身につける。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			○
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】 第1回：言葉にはどのような力があるか—意見の交流から— 第2回：言葉の意義と機能 第3回：言葉の獲得—乳児期から小学校前まで— 第4回：小1プロブレムと幼・保で育てる「言葉」について 第5回：読み聞かせ・素話・紙芝居・幼年童話の魅力と意義 第6回：読み聞かせ研究の現在と実践家の書籍から 第7回：読み聞かせの実践—現場での実践ビデオから学ぶ— 第8回：昔話の構造と魅力 第9回：昔話絵本の比較から学ぶ 第10回：子守歌・童謡（メロディーを伴った言葉の力） 第11回：『センス・オブ・ワンダー』に学ぶ —子どもの世界を理解し共感し共に探索する姿勢— 第12回：言葉の感覚を豊かにする実践とは① —新聞記事等を基に、事例に学ぶ— 第13回：言葉の感覚を豊かにする実践とは② —自ら実践を考えてみよう—		【授業時間外の学習】 毎回40分～60分程度 ・絵本リストを作成する。各自、紹介された絵本のみならず、たくさんの絵本を追加できるよう図書館を利用して読み、書き入れること。 (20分) ・読み聞かせを相互に行う。下読み及び、練習をしておくこと。(15分) ・単元に合わせて準備してくること等、宿題が課される。忘れず調べたり用意したりすること。(20分)	

第14回：言葉の感覚を豊かにする実践とは③ ー実践案を交流しようー	
第15回：言葉の感覚を豊かにする実践を踏まえた部分指導案作成 定期試験：筆記	
【授業の方法】 PBL、グループ活動、課題に対するクラス全体での意見交流、ディスカッション等も行う。 読み聞かせ・紙芝居等は、相互に実践を行う。 授業で提出したプリントやレポートには、赤でコメント等を入れて返却する。	
【テキスト】 『子どもの育ちと「ことば」』 監修 松川利広 編著 横山真貴子 教育情報出版	
【参考書・参考資料等】 『子どもとことば』岡本夏木著 岩波書店 『ことばと発達』 岡本夏木著 岩波書店 『センス・オブ・ワンダー』レイチェル・カーソン著 上遠恵子訳、新潮社 『幼稚園教育要領』（最新版）、『 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版）他	
【学生に対する評価】 ルーブリック評価について学生に周知し、評価に活用する。 定期試験の成績（50％）、提出物（30％）、授業参画度（20％）を判断して評価する。	
【履修上の注意】 互いに意見を出したり発表したりする活動が多い。主体的に参加し、準備等も行うこと。	
実務経験の有無：無	実務経験：
【実務経験を生かした教育内容】	